

◆新入会員の紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。
(敬称略)



竹中 繁夫
平成五年・商学部卒
竹中産業(株)
代表取締役社長
東京都中野区在住



中村 豊
昭和四十七年・商学部卒
早野組・営業本部顧問
山梨県甲斐市在住



駒田 一郎
昭和五十五年・商学部卒
京王電鉄(株)
取締役開発企画部長
東京都多摩市在住



石井 仁
昭和五十七年・経営学部卒
(株)三井住友銀行
常務執行役員
東京都世田谷区在住



藤代 耕一
昭和三十四年・商学部卒
フジ企画(株)
代表取締役社長
神奈川県横浜市在住



齋藤 文孝
昭和四十八年・工学部卒
共同印刷(株)
取締役技術統括本部長
埼玉県東松山市在住



落合 由行
平成十五年・政経学部卒
ハミルトン(株)・代表取締役
千葉県浦安市在住



栗原 権右衛門
昭和四十六年・商学部卒
日本電子(株)
代表取締役社長
茨城県土浦市在住



泉山 和久
平成十六年・文学部卒
三八五流通(株)・常務取締役
青森県八戸市在住



石川 均
昭和五十五年・商学部卒
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
常務執行役員神奈川本部長
神奈川県大和市在住

◆明大ニユース

●法人役員 監事に三氏が就任

学校法人明治大学監事に、大山卓良氏、有賀隆治氏、熊崎勝彦氏が六月一日付で就任した。三氏は三月十三日に行われた役員候補者銓衡委員会(橋口隆二委員長)で監事の候補者として銓衡され、同二十九日に開催された評議員会で学長・理事長・理事とともに選任された。任期は二〇一六年五月三十一日までの四年間。

●顧問に九氏が就任

学校法人明治大学顧問に九氏が、五月一日に開催された評議員会で選任され、五月二日付で就任した。任期は任命した日高憲三理事長の任期満了日の二〇一六年三月三十一日まで。

●二〇一一年度私大経常費補助金

明大への交付額は約四十一億円
日本私立学校振興・共済事業団は、二〇

一一年度の私立大学等に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表し、明大への交付額は前年度比二億五千四百八十一万九千円増の四十一億三千三百四十万四千円となった。

●理事会研究会 重要課題を集中検討

学校法人明治大学理事会は五月十五日、六月十二日、十九日の三回、当月初の理事会研究会を駿河台キャンパスで開催した。

●学長スタッフ研修

春季の学長スタッフ合宿研修が四月二十八日から三十日まで、幕張で行われた。研修は、教学運営の方針策定を目的に年二回行われるもので、福宮賢一学長、飯田和人教務担当理事、三木一郎学務担当理事、松本隆栄総務担当理事、針谷敏夫理事、鎌倉行男理事をはじめ、副学長、学長室専門員などの全スタッフが参加し、理事長に提出する二〇一三年度の年度計画書や教学の諸課題をテーマに開催された。

●本学の発展に多大な貢献

九氏に名誉教授の称号を授与

永年にわたり明治大学の教育学術の発展に尽力され、学内外で顕著な功績を挙げられ

た九氏に、名誉教授の称号を五月一日付けで授与した。

●教員人事

理工学部長に荒川教授

理工学部長だった三木一郎理工学部教授が学務担当常勤理事に選任されたことともなう後任の理工学部長に、四月七日から理工学部長事務取扱を務めていた荒川利治教授が五月二十四日付けで任命された。

●さらなる発展を創立者に誓う

日高憲三理事長をはじめ大学役員・役職者は五月二十一日、明治大学の創立者三人の墓参りを行った。一行は、岸本辰雄先生と宮城浩蔵先生が眠る東京台東区の谷中墓地と、矢代操先生が眠る東京港区の青山墓地を訪れ、明治大学のさらなる発展に向けて努力することを創立者の墓前で誓った。

●春の褒章・叙勲

政府は二〇一二年春の叙勲受章者四千百人を四月二十九日に発表した。明治大学の各県校友会支部等を通じて報告された受章者は次のとおり。

▽瑞宝重光章 八峠剛一氏 (元仙台地方検察庁検事正、一九六三年法学部卒・七十一歳)

▽旭日中綬章 山本栄彦氏 (元山梨県知事、

一九五八年経営卒・七十六歳)、三村輝文氏 (元青森県議会議員、一九五三年政経学部・八十一歳)

▽瑞宝中綬章 池田典隆氏 (元長野県副知事、一九七二年法学部卒・七十歳)、中村瑞穂氏 (明治大学名誉教授、一九五六年慶大経済学部卒・七十八歳)

▽旭日小綬章 石川良三郎氏 (元川越市議会議員、一九五三年法学部卒・八十一歳)、遠藤隆久氏 (元浜松市議会議員、一九五二年商学部卒・八十二歳)

▽旭日双光章 塩崎武男氏 (元福井県喫茶飲食業生活衛生同業組合理事長、一九六三年法学部卒・七十二歳)、須田隆氏 (元逗子議会議員、一九六〇年政経学部卒・七十六歳)、津波古勝三氏 (沖縄県生コンクリート工業組合理事長、一九六五年法学部卒・七十歳)、丸弘氏 (埼玉県青色申告会連合会会長、一九五九年商学部卒・七十五歳)

▽黄綬褒章 大澤孝至氏 (松坂屋建材(株)社長、一九六九年商学部卒・六十五歳)

●OB市長

▽山口県美祿市 村田弘司氏 (無所属②、一九七七年農学部卒・五十九歳)

●OB社長

▽(株)テレビ新潟放送網(放送) 室川治久氏

(一九六九年商学部卒・六十五歳)

▽(株)関電工(電気) 〓水江博氏(一九六九年商学部卒・六十五歳)

▽日清フーズ(株)(食品) 〓岩崎浩一氏(一九八〇年商学部卒・五十五歳)

▽(株)九九プラス(小売業) 〓河原成昭氏(一九七七年商学部卒・五十七歳)

▽(株)IMAGICA(映像) 〓藤川幸廣氏(一九七九年商学部卒・五十五歳)

▽(株)東急ストア(総合小売) 〓須田清(一九七九年法学部卒・五十六歳)

▽(株)時事通信社(通信) 〓西沢豊氏(一九七四年政経学部卒・六十二歳)

●ヒューマンネットワークの強化

本学出身の市区長と懇談会を開催

学校法人明治大学は六月五日、ヒューマンネットワークの更なる拡がりを目指す『本学出身の市区長との懇談会』を駿河台キャンパス紫紺館で開催。日高憲三理事長、福宮賢一学長をはじめ大学役員ならびに向殿政男校友会長ら本学関係者と、全国各地で社会的リーダーとして活躍する市区長が参加し、活発な意見を交換した。

●新司法試験(短答式)

合格者数明大は全国五位

法務省は六月七日、五月に行われた二〇

一二年の新司法試験短答式試験の結果発表を行った。明大の合格者は二百四十七人で全国五位(昨年同位)だった。

●創立一三〇周年特設サイト

『二〇二二日本BtoB広告賞』で金賞受賞

好評を博した明治大学創立一三〇周年特設サイト(ホームページ)が、第三十三回「二〇二二日本BtoB広告賞」ウェブサイトに(コーポレートサイト)の部で金賞に輝いた。これは、一般社団法人日本BtoB広告協会が主催するコンテストで、BtoB広告の普及と振興をはかるために一九八〇年から開催しているもので、今回は過去最高の三百三十八点が応募された。本学の特設サイトは、コミュニケーション・マーケティング活動においてウェブサイトが重要な役割を果たし、ブランド作りに寄与した好例として最高位の受賞となった。

●夏の節電

クールメイズはじめます

政府は五月十八日、今夏の電力需給対策について発表した。それは全国(沖縄を除く)で、七月二日(九月二十八日の平日(八月十三(十五日を除く)九時(二十時)において節電を要請した上で、明治大学が位置する

東京電力管内では「数値目標を伴わない節電要請」というもの。これは、「東京電力管内はマイナス六一〇万kw(一昨年比マイナス一〇・二%)の節電が定着している」との見込みに加え、「今夏が猛暑であっても、節電により電力の最低限必要となる供給予備率三%を確保できる」との見通しによるもの。

この要請を受け明治大学では、理事会の下に設置されている環境保全推進委員会で対応を検討し、今夏の節電が要請されている期間中は、昨年に引き続き、教育・研究活動に支障のない範囲で、社会的責任を果たす節電に取り組むことを決定した。

●二十一世紀型自然共生社会の構築に向けて

黒川農場開所式を挙行

明治大学黒川農場(農場長 〓玉置雅彦農学部教授)は六月十六日、同農場の開所式を現地(神奈川県川崎市麻生区黒川二〇六〇一)本館二階教室で執り行った。

●宮城県気仙沼市と復興支援協定を締結

明治大学は五月十八日、宮城県気仙沼市と「明治大学と気仙沼市との震災復興に関する協定書」を締結した。これは、東日本大震災に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、震災復興を目的とした自治体との協定として、福島県新地町(一

月)、岩手県大船渡市(四月)に続き三件目となる。

●千葉県浦安市と

包括的連携に関する協定を締結

明治大学は五月二十八日、千葉県浦安市との間に「浦安市と明治大学との包括的連携に関する協定」を締結した。

●世界に広がる協定校

三十八カ国・地域 百九十九大学と協定

明治大学は、カリフォルニア大学デービス校、プリンスオブソングラー大学、漢陽大学、サンクトペテルブルク国立工学・経済大学、アデレード大学、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、ルーヴェン・カトリック大学と大学間協力協定を、デューク大学大学院・アジア太平洋研究所と部局間協力協定を、シンガポール国立大学設計・環境学部、ケープタウン大学工学・建築環境学部と学部間協力協定を新たに締結した。協定校は三十八の国と地域で、百九十九大学(学部間協定など含む)となった。

●ベルギー王国とは初めてとなる

ルーヴェン大と協力協定締結

明治大学は六月十一日、ルーヴェン・カトリック大学と大学間協力協定を締結した。

同大学は、本学にとってベルギーでの初の協定校となる。

●校友会 韓国支部総会を開催

校友会外国支部の一つである大韓民国支部(支部長 朴元錫)は六月九日、ソウルのロッテホテルで同支部総会(明治大学韓国同窓会)を百人以上の参加者を得て盛大に開催した。

●南アフリカ駐日大使が来訪

学術・学生の交流について意見交換

福宮賢一学長は六月二五日、二〇一二年より駐日南アフリカ共和国特命全權大使に就任したモハウ・ペコ閣下、同国科学技術担当のセシル・マソカ公使の訪問を受けた。

●上海対外貿易学院が来訪

上海対外貿易学院の光虹副学長らは五月十日、明治大学駿河台キャンパスを来訪し、勝悦子副学長(国際交流担当)、鈴木健情報コミュニケーション学部長、関山健国際連携機構特任准教授らと、国際連携の推進状況や今後の学生交流についての意見交換を行った。

●雲南民族大が来訪

明治大学は五月二十一日、中国・雲南民族大学校党委副書記らの訪問を受け、針谷敏

夫理事、勝悦子副学長(国際交流担当)、氣賀澤保規文学部教授、川野明正法学部准教授が、駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階の貴賓室で、教員および学生交流についての懇談を行った。

●政治経済学部・タイ国立シーナカリンウイ

ロート大学

第二回短期留学生受け入れプログラム

本学とタイ国立シーナカリンウイロート大学との大学間協定に基づく、政治経済学部の短期留学生受け入れプログラムが四月十六日～五月十一日の日程で実施された。第二回目となる今回は、シーナカリン大の三学部・一研究科から計三十四人の学生が来日。講義や施設見学、学生間交流など、中身の濃い一カ月間を過ごした。

●日本初開催『欧州留学フェア二〇一二』

日本で初めての開催となる『欧州留学フェア二〇一二』(主催・駐日欧州連合代表部)が五月十・十一日の二日間、駿河台キャンパス・アカデミーコモン二階ビクトリーフロアで開催された。

●国際教育研究所開設記念シンポジウム

「グローバル人材を測る物差しを考える」を開催

国際教育研究所は五月十八日、同研究所の開設を記念した第三回目の国際シンポジウムを駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催。グローバルに活躍しうる人材の資質などについて、国内外の第一線で活躍する研究者らの議論に、聴衆三百十七人が熱心に耳を傾けた。

●明大・立大・国際大

「国際協力人材の育成」で三大学協定を締結

明治大学は六月十八日、立教大学、国際大学との間に「国際協力人材の育成に関する協定」を締結した。これは、三大学が連携して地球規模の課題の解決に向けた教育プログラムを開発し、国際社会の平和と安定に貢献する人材を育成するためのもの。

●二〇一二年「科学研究費助成事業」

約四億五千万円・二百四十一件（過去最高）が採択される

文部科学省および独立行政法人日本学術振興会から、二〇一二年の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）の交付内定が発表された。明大の二〇一二年の採択件数は二百四十一件（前年度比四件増）で過去最高を記録、金額は新規と継続分を合わせ四億五千四百三十五万円（同三千四百五十二万円減）だった。

●商学部アワー

吉田菊次郎氏「人はお菓みに夢を見る」

商学部は和泉キャンパス新図書館ホールで五月十五日、毎週火曜日に行われる「商学部アワー」に、(株)ブルミッシュ代表取締役社長吉田菊次郎氏（一九六七年商卒）を招き、事前に申し込みを済ませた同学部一・二年生百人を対象に、OB招待講演「人はお菓みに夢を見る」を開催した。

◆明大町づくり道場

三年目の活動がスタート

お茶の水・神保町界隈の町おこしを目指す明大生有志の組織「明大町づくり道場」は五月二十六日、駿河台キャンパスで新メンバーの初顔合わせ（キックオフミーティング）を行った。作曲家でミュージシャンの宇崎竜童氏（一九六九年法卒）を「道場主」とする同組織は、発足三年目。

●NHK環境キャンペーン

『ECCOパーク二〇一二』に明大生が参加

NHK環境キャンペーン『ECCOパーク二〇一二』が六月二・三日の両日、東京都渋谷区のNHK放送センターで開催され、明治大学から生田ボランティアセンター『こなら楽舎』と環境ボランティアサークル『くればす』の学生が参加した

●明大発 ロンドン

紫紺のアスリートたちに熱い声援を

第三十回オリンピック競技大会（二〇一二年ロンドン、七月二十七日開幕）、ロンドン二〇一二パラリンピック競技大会（第十四回夏季大会、八月二十九日開幕）に出場する明治大学関係者が、体育会各部などからの報告を通じて判明した。

紫紺のアスリートたちに熱い声援をお願います。（六月十二日時点で出場等が判明した明大関係者を掲載・敬称略）

- ▽海老沼匡（えびぬま まさし） 柔道（男子六六級）、二〇一二年商学部卒
- ▽上川大樹（かみかわ だいき） 柔道（男子百超級）、経営学部四年
- ▽渡邊一樹（わたなべ かずき） 水泳（競泳二百メートル背泳ぎ）、二〇〇九年商学部卒
- ▽平井康翔（ひらい やすなり） 水泳（競泳十キロマラソン） 政経学部四年
- ▽大岩義明（おおいわ よしあき） 馬術（総合馬術競技団体）、一九九九年商学部卒
- ▽弓良隆行（ゆみら たかゆき） 馬術（総合馬術競技団体）、二〇〇三年農学部卒
- ▽佐藤賢希（さとう けんき） 馬術（総合馬術競技団体）、二〇〇八年法学部卒
- ▽水谷隼（みずたに じゅん） 卓球（団体・シングルス） 政経学部四年

▽須長由季(すなが・ゆき) Ⅱセーリング(RSⅡXクラス)、二〇〇三年商学部卒
 ▽秋山里奈(あきやま・りな) Ⅱ水泳・パラリンピック(百歳背泳ぎ他)、法学研究科
 博士前期課程二年

〔監督・コーチ・スタッフ〕

▽上村春樹(うえむら・はるき) Ⅱ日本選手団団長、一九七三年政経学部卒
 ▽川口孝夫(かわぐち・たかお) Ⅱ国際柔道連盟審判委員会委員、一九七三年政経学部卒
 ▽園田隆二(そのだ・りゅうじ) Ⅱ女子柔道監督、一九九七年経営学部卒
 ▽佐々木則夫(ささき・のりお) Ⅱ女子サッカー監督、一九八一年文学部卒
 ▽安田善治郎(やすだ・ぜんじろう) Ⅱ女子ホッケー監督、一九六九年文学部卒
 ▽藤原信幸(ふじはら・のぶゆき) Ⅱ女子ホッケーコーチ、一九九八年文学部卒
 ▽倉嶋洋介(くらしま・ようすけ) Ⅱ男子卓球コーチ、一九九九年経営学部卒
 ▽山根英紀(やまね・ひでき) Ⅱトライアスロンコーチ、一九九一年政経学部卒

●ロンドン五輪激励会を開催

明治大学・校友会・駿台体育会は六月二十日、駿河台キャンパスリバティタワー二十

三階で、第三十回オリンピック競技大会(二〇一二・ロンドン)とロンドン二〇一二パラリンピック競技大会(第十四回夏季大会)に出場する明大関係の選手ならびに監督・コーチ・役員の激励会を開催した。

●ベルリン五輪男子マラソン金メダリスト

孫基禎生誕一〇〇周年記念シンポジウム『平和への道』を開催

孫基禎生誕一〇〇周年シンポジウム実行委員会(委員長 Ⅱ寺島善一商学部教授)は六月九日、明治大学および在日本大韓国民団中央本部と共催で、駿河台キャンパスリバティホールで、一九三六年ベルリン五輪男子マラソンで金メダルを獲得した校友の故孫基禎氏(そん・ぎじょん、一九四〇年専門部法科卒、一九九五年明治大学特別功労賞受賞)の生誕百年を記念し、「スポーツを通じた国際相互理解という真のオリンピック精神を体現したヒーロー・孫基禎生誕一〇〇周年シンポジウム『平和への道』」を開催した。

●野球部六大学野球春季リーグ終了

秋に雪辱誓う

体育会硬式野球部は五月二十八日、東京六大学野球春季リーグの全日程を終えた。今季の優勝は惜しくも逃したが、各選手の成長を得て、秋季リーグでの雪辱を誓った。

●スケート部アイスホッケー部門 二大会連続優勝

体育会スケート部アイスホッケー部門は四月三十日、『秩父宮杯第六十回関東大学アイスホッケー選手権大会』(会場・ダイドードリンコアイスアリーナ)の決勝戦で、中央大を四―二で下し見事に二大会連続、通算二十三回目の優勝を飾った。

●アメリカンフットボール部

赤津、柳、渡邊の三選手
明大から初の世界選抜入り

体育会アメリカンフットボール部の赤津裕之(文2)、柳龍太郎(経営2)、渡邊健太郎(経営1)の三選手が、十九歳以下の選手によるアメリカンフットボールの世界選手権大会「I F A F U - 19 世界選手権大会二〇一二」日本代表選手に選出された。明大が同大会代表メンバーに選抜されるのは初めて。



◆祝・叙勲

会員の中西幹育氏（昭和三十五年工学部卒、(株)事業創造研究所代表取締役社長）が、春の叙勲で旭日双光章を受章されました。

◆五月総会出席者

秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、有賀隆治、池田一義、池田勝也、石川かおり、石橋良一、石原道勝、石原裕司、伊東正博、伊原敏雄、岩田守弘、岩山征弘、植木榮、上田興文、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、内田八郎、大石哲也、大竹夏夫、大牟田伸洋、大山卓良、菊部彰夫、河合秀二郎、河村博、北野大、木下重次郎、清末法弘、日下豊顕、國井英夫、河野典男、古賀慎一郎、小柴和弘、小山修、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤弘之、斎藤柳光、坂田英夫、坂本孝行、佐藤和正、佐藤健、眞田瞳、澤野太嘉嗣、志田憲彦、甚野捷、鈴木紘一、鈴木隆志、瀬戸正道、宗邦雄、相臺志浩、高橋郁夫、武内裕、竹中繁夫、武原誠郎、田嶋幸一、田代恭一、谷慈義、玉田健治、田村駿、長岡信裕、中川敏洋、中村欣治、西尾勝治、西山武夫、二宮充子、二宮忠、野口昌宏、橋口隆二、蓮池信之、長谷川勝彌、長谷川進一、八丁地園子、濱崎治、原田榮、樋口郁夫、日高憲三、比良田幸雄、広瀬康雄、福田

和彦、富士豊、藤巻伴英、舟橋達彦、星野範仁、前川一郎、松崎優子、丸山律夫、宮下隆、向井眞一、六井元一、村岡健、村瀬尚

男、室井恵明、森一朗、安河内究、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、吉村國廣、渡辺紀之 計百五名

【編集後記】

「文武両道」

僕は勉強も大好きです！。過日のロンドンオリンピック校友会駿台体育会合同激励会。水泳十^キマラソン出場の平井康翔（やすなり^キ政経学部四年）選手のスピーチに会場がドツと沸いた。あっぱれ明大健児！ 誰もが、胸を張って「文武両道」と言い切った彼に、いつにない新鮮さと驚きを覚えたからに違いない。それほど近頃は、文武は全くの別物、両立などはしよせん異能のなせる業だと思いきまれてしまっている。

そうなのだろうか？ 折しも知友であるジャーナリスト長田渚左さんが編集長の「スポーツ ゴジラ」誌が興味深い論究をしていた。「勉、強は頭で、運動は身体です」というのは誤解で、ともに脳が行う」と深代千之東京大学大学院教授が鋭く迫り、文部科学省調査による「小中学校で運動のできる子供は勉強もできる」など

国内外の実証も示している。

つまり、文武両道の可能性は誰もが持っている。要は親が子供に運動を薦めるかどうかだといふのである。

もちろん、いわずもがなの「文」優先の時代。武の分の悪さは否めない。それだけに教育界の使命の大きさがあらためて注目されてもいる。

そんな中、わが明治大学からオリンピック挑戦は、今回のロンドンで夏二十、冬十七の通算三十七大会目となり、参加選手は一九二〇年アントワープ大会陸上の加賀一郎、八島健三両選手から総数二百五十人を超すという。まさに文武両道大学の誉である。そして一九二八年アマステルダム大会の二百^リ平泳ぎで日本水泳メダル第一号に輝いた鶴田義行さん（昭和七年専門部法科卒）をはじめ十三人の金メダリストを輩出して来た。伝統は今に、日に日に期待が募ってくる。

（広報委員長 齋藤 柳光）